

新型コロナに体制強化

「市民の命は必ず守る」

あらゆる場合想定し準備



木本 眞 今治市医師会長

今治市出身。順天堂大学医学部卒業。1978年岡山大学医学部附属病院放射線科に入局し、1992年に助教授。専門は放射線科・内科。1995年、放射線第一病院へ。2008年理事長に就任。2014年、今治市医師会会長に就任し、地域医療の充実・連携に邁進。

マイタウンは同会の木本眞会長に、医療体制や検査、これからの時期、市民が注意すべきことや疑問などをインタビューしました。

記者 竹葉

今回はお忙しいところ、ありがとうございます。早速ですが新型コロナウィルスの対策について伺います。今治市医師会では、感染者が増えた場合、どのように対応していきますか？

「発熱の場合は、電話連絡を」

ますか？

木本眞今治市医師会長

現在、松山市ではすでに患者数が増え、受け入れ病院がオーバーフローする「フェーズ3」になりました。その現状を受け医師

会では、市内の新型コロナウィルスの感染状況にに応じ、あらゆる場を想定し会議を重ね、準備を進めています。現在は、市外の病院に患者さんを搬送していただき、今治市で患者さん

を診ることになれば、新型コロナによる入院患者数が8人以下の場合は、医師会市民病院（別宮町7）、県立今治病院（石井町4）、済生会今治病院（喜田村7）の3病院の計8床で対応します。

記者

では、それ以上に増えた場合や軽症者の受入れはいかがでしょうか？

会長

患者さんの件数がクラスタの発生などで急に加速し、入院患者数も増加するなど医療機関に対し負担のかかる場合は、医師会市民病院を中心に他の病院と連携をとりながら、受入れ体制を変えていきます。

また軽症や重症など患者さんの状態に合わせて、

搬送先を確保していただきます。無症状や軽症の場合は民間施設に、重とくの場合は愛媛大学医学部附属病院へ搬送します。

記者

これから冬本番を迎えます。空気も乾燥しインフルエンザなど新型コロナだけでなく、様々なウィルスに感染しやすくなります。市民が注意すべきことはありますか？

会長

発熱など風邪のような症状が出たら、病院に行く前にまず、かかりつけ医に電話相談してください。新型コロナの初期症状は、風邪やインフルエンザなど他の疾病と見分けにくいいため、事前の相談がないまま直接、医療機関を受診しないようお願いいたします。発熱の症状がある場合は、入口を別にして、必ず事前に電話連絡をして、受診する医療機関の指示に従ってください。

記者

新型コロナの検査について教えてください。